

(参考様式6)

事業活用活性化計画目標評価報告書

令和2年8月20日作成

活性化計画名	松山市里島活性化計画			
計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
松山市	38201	3	H26～H30	H26～H28
活性化計画の区域				
松山市里島地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B / A	備考
農山漁村への定住促進 (交流人口の増加)	11 千人	9.6 千人	87.2%	
農山漁村への定住促進 (雇用者数の増加)	21 人	33 人	157.1%	
農山漁村への定住促進 (ラウベ利用世帯数の増加)	8 世帯	8 世帯	100.0%	

(コメント)

興居島に廃校となった小学校の跡地を活用して建設した農園付ラウベ等を整備することにより施設での雇用者数及びラウベ利用世帯を確保し、目標を達成した。

交流人口の増加については、平成 30 年度に西日本豪雨の影響により目標に届かなかったものの、全体としては、概ね達成できた。

(記入例) 交流人口の増加の場合

目標値 A = (目標値 / 現状値) × 100 - 100、実績値 B = (実績値 / 現状値) × 100 - 100

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量	事業実施主体
農林漁業・農林 漁村体験施設	体験滞在型農業体験施設 (クラインガルテン) 実施設計一式 建設工事	松山市

管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
松山市	平成 26 年度	平成 28 年度	平成 29 年 4 月 1 日
事業の効果			
ラウベ等の建設によって都市住民との交流を促進することで地域活性化を図るとともに、定住の促進にもつなげることができた。			

3 総合評価

(コメント)

平成 30 年度の西日本豪雨で対象地区が被害を受けながらも、交流人口について約 87%達成できたことや残りの目標がいずれも達成できている状況から現時点では地域の活性化につながる成果があったと考える。

今後も、今回整備した体験滞在型農業体験施設を拠点に都市住民との交流促進による地域活性化を図っていく。

4 第三者の意見

(コメント)

体験滞在型農業体験施設の整備により、活性化計画の目標値を達成したことは十分評価できるものと考えます。

今後も整備した施設の活用を図り、定住の促進に努めることを期待する。

松山離島振興協会 会長 石本 憲三

【記入要領】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
 - (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は、実施要領第 16 の 3 の (1) 及び (2) に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
 - (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果（農山漁村の活性化に関連する効果）を幅広く記入すること。
 - (4) 第三者とは「当事者以外の者」「その事柄に直接関係していない人」であり、計画主体、事業実施主体、管理主体のいずれの組織にも属さない者で事業地区を熟知している者。公務員は対象外とし、事業評価委員会等の組織を有する場合は積極的に活用すること。
- ※ 達成率等算出根拠（参考様式 6 添付資料）を必ず添付すること。